

今月のことば

私がいて
おかげさま
ではなく
おかげさま
があつて
私がいる

(釈秀章)

私たちは、多くのものと繋がりが合い、支え合って生きています。このように、すべてのものは、繋がりの中で存在しているということを、お釈迦さまは、「縁起」という言葉で教えてくださいました。

「縁起」というと、「縁起がいい・悪い」という言葉が浮かぶ人も多いと思いますが、それは、仏教用語としての「縁起」の意味が変化して使われているもので、本来の意味とは違います。本来は、文字通り、「縁によって起こっていること」「つまり、「すべてのものは、多くの関わり合い（縁）によって、成り立っている（起）」という意味なのです。

この「縁起」ということを受け止めた時、「おかげさま」という心が起きます。「おかげさま」は、漢字で「お陰さま」と書きますが、陰になつて支えてくれているものに、「お」と「さま」という言葉をつけて、丁寧と呼んでいることに、感動します。

また、「縁起」の受け止め方として大切なことがあります。それは、私がいて、多くのものと繋がっているのではなく、多くのものとの繋がりの中で、初めて私がいるということ。繋がりがなかったら、私はいないのです。つまり、「私がいる（存在する）」ということを前提にして、「お陰さま」ではなく、「お陰さま」があるから「私がいる」のです。ややこしく感じるかもしれませんが、これは、とても重要なことなのです。

『私がいて「おかげさま」ではなく、「おかげさま」があつて私がいる』、このように縁起が正しく受け取れた時、自らの生き方が厳しく問われてきます。

龍谷大学非常勤講師

こいけひであき
小池秀章